

## 留学生だより

## ミシガン大学 [アメリカ]

三宅 苞\*

しげる

私は現在リモートセンシング学科の修士課程に在籍し、計測の勉強をしております。留学期間は 52 年 8 月より 2 年間の予定です。製鉄と最も関係の深い「金属材料学科」—Materials and Metallurgical Engng.—には教授陣として精錬のペルケ (R. D. PEHLKE)、鋳鉄のフリリン (R. A. FLINN)、物理冶金のレスリー (W. C. LESLIE)、熱力学のハッキ (E. E. HUCKE) などの名前が並び、日本人では和田春枝さんが Research Scientist として精錬の研究を続けておられます。ご主人の次康氏も金属学者で、お二人でミシガン大学を訪れる日本の金属関係者の世話を一手に引き受けておられます。

デトロイトの西約 60 km に位置するここアナーバー (Ann Arbor) は人口十万余のうちミシガン大学の学生が三万五千を占める文字通りの大学街です。夏はショートパンツにサンダル、冬はスキー服に登山靴が服装の主流をなし、衝突の跡を見事に留めた車が堂々と走り、各国のお国訛りに色どられた英語がしやべられる所です。街の中心から車で十五分も走れば、のんびりとした田園風景が広がってきます。秋のフットボール以外、大して人々を興奮させるものもないかわりに、アメリカの大都市につきものの危険地帯もありません。長い冬は人々を家に閉じ込めます。落ち付いて勉強に励むのには適した場所です。

寒暖の差が激しく冬が長い気候は決して日本人向きではありませんが、その割に多くの日本人がここに留学しています。テニスコートのあちこちから、「すみません」「お願いします」などの声が聞こえ、隣のグラウンドでサッカーに興じるオリエンタルの一团から「いくぞお」と声が飛び、そばの小径をゆるゆると自転車を走らせる若者が「お嫁においで」を口ずさむといった具合です。

アメリカの大型車に混って、日本の小型車が驚くほど多数街を走っています。これなども人々が日本の経済力に注目してくれる理由の一つでしょう。円はどんどん強くなつて、その分だけ日本からの円立て送金額が増えています。会話力の不足、スタイルの悪さ、社交性のなさが気になる多くの日本人留学生に、強き日本経済が勇気と自信を与えてくれます。

到着後間もない頃は、用事は多い、勝手はわからない、車はないで誰にとつても特に家族持ちにとつては一

番大変な時期です。そんな時、すでにこちらの生活に慣れた日本人がただ同じ日本人というだけで、救いの手を差し伸べてくれます。自分が生活に慣れてくると、今度は手伝う側にまわります。畑の中の小都市アナーバーで、日本人留学生家族が受け継いでいく美しい伝統であります。

アナーバーでの人々との交わりは短かく、しかしそれぞれに印象は鮮明です。それはまるで夏の夜、闇の中から次から次へと現れては消えていく線香花火の火花を見る思いです。例えば、こんな会話が印象的でした。クラスメートに「どこの“島”から来たのですか」と尋ねられました。なぜ“国”と言わないのかなと変に思いつつ「ジャパンという島から来ました。」と答えると、「ノォ、ホンシュウですか、ホッカイドーですか」と聞き返されました。またある時、レストランで、私の子供が、隣に座つた黒人から「たくさん可愛いですね」と日本語で話しかけられました。二人とも兵役時代に日本に住んだ事があつたのです。「あなたの国の留学生にパーティで会つた。」話しかけられたマダガスカルからの留学生は、「それは絶対ありません。わが国からアメリカに留学している学生は 25 人、ミシガン大学にはこの私ただ一人。ワシントンの大使館で確認しています。」と答えていました。ナイジェリア人留学生が「私はかつてゲリラだつた。毎日 2 時間の睡眠で、敵の部族と闘つた。」と私に銃を構える手つきをしながら、ビアフラ戦争の当時



University of Michigan Engineering Arch

\* 川崎製鉄(株)技術研究所(留学中)

を語ってくれました。「スタンフォードに夫の職が見つかったので近いうちに引越します。職は三年の契約です。その後? オォそれは誰に分かるでしょうか。」と隣の住人があいさつに来ました。

さまざまな経歴の人が、アメリカ国内外を問わず、季

節を問わず、アナーバーにやつて来ます。学位を取り、職を見つけ、あるいは留学期間を終えると、また別の大学へ、新しい職場へ、母国へと去っていきます。そういう人々のための街としてアナーバーは特徴づけられるようです。